

都市再生整備計画 事後評価シート

青森操車場跡地周辺地区

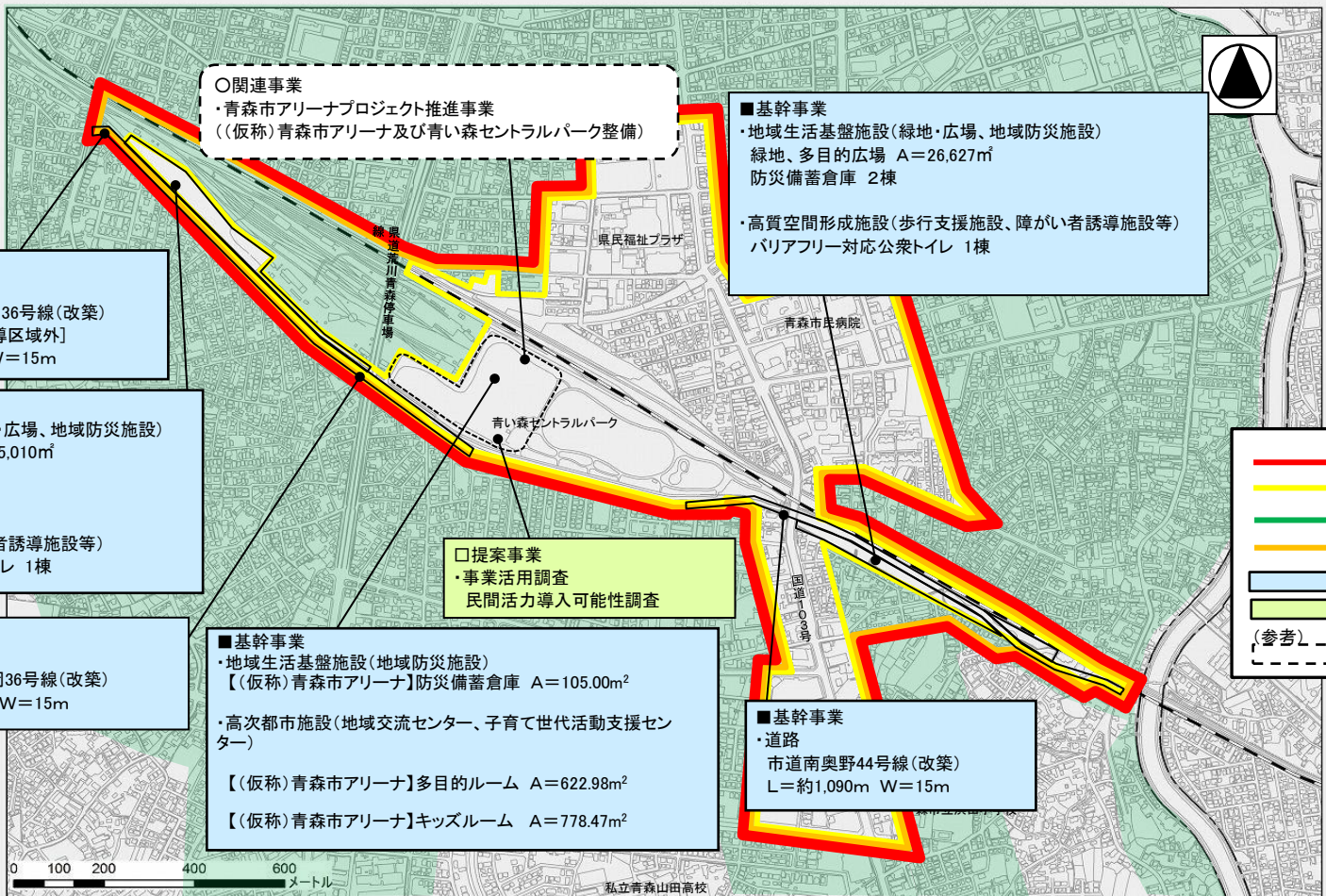
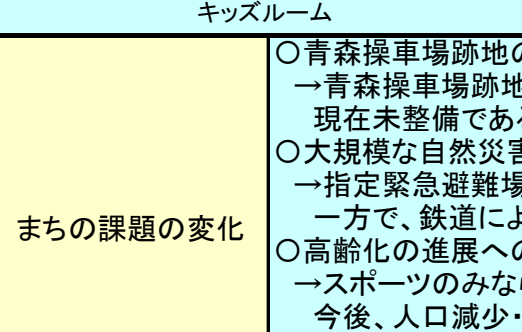
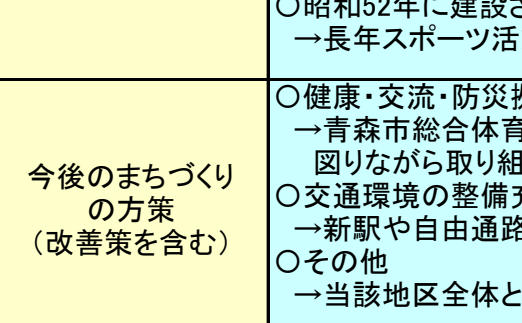
令和6年11月

青森県青森市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		青森県		市町村名		青森市		地区名		青森操車場跡地周辺地区			面積	100.0 ha					
交付期間		令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期		令和6年度		交付対象事業費		3,682.4百万円	国費率	0.463							
1)事業の実施状況		当初計画に 位置づけ、 実施した事業		事業名															
				基幹事業		道路、地域生活基盤施設(緑地、広場、地域防災施設)、高質空間形成施設(障害者誘導施設等)													
				提案事業		事業活用調査(民間活力導入可能性調査)													
		当初計画 から 削除した 事業		基幹事業		事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
				提案事業		—				—				—					
				提案事業		—				—				—					
		新たに追加し た事業		基幹事業		①道路(都市機能誘導区域外) ②高次都市施設(地域交流センター、子育て世代活動支援センター)				①幹線道路との接続部を改良することとしたため。 ②提案事業(事業活用調査)を踏まえ、整備内容が決定したため。				—					
				提案事業		—				—				—					
交付期間 の変更		当 初		令和元年度～令和5年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		—											
		変 更		—															
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況		指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ				
					基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期				
		指標1	市民が交流活動できる環境に関する満足度	%	34.0	H30	40.0	R6		40.4	○	あり	道路の拡幅整備による交通環境の向上、緑地・多目的広場の整備による地域住民の憩いの場の創出などが図られたことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。		—				
												なし							
		指標2	市民体育館(アリーナ)の利用者数	人/年	162,870	H28	265,893	R6		396,004	○	あり	スポーツのみならず、多様な催事ができる交流拠点として青森市総合体育館を整備し、併せて青い森セントラルパークにおいて公募設置管理制度(Park-PFI)を活用し、魅力の創出を図ったことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。		令和7年7月				
												なし							
		指標3	地区の安心・安全性に関する満足度	%	33.5	H30	40.0	R6		26.9	×	あり	多目的広場、道路新設・拡幅、防災備蓄倉庫の整備などにより防災機能の強化を図ることができたものの、令和6年5月実施の市民意識調査時点では、青森市総合体育館開業(令和6年7月)前であり、整備効果が発現していない。		令和7年11月				
なし																			
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標) による効果発現状況		指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ				
					基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期				
		その他の数値指標1	—	—	—	—			—				—		—				
4)定性的な効果 発現状況		・青森市総合体育館のメインアリーナや広大屋根付き空間「ヨリドマ」では、プロスポーツ、コンサート等の興行、地元町会でのイベント活用、若手農家による産直市といった、多様な主体による活動が活性化している。																	
5)実施過程の評価				実施内容				実施状況				今後の対応方針等							
		モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた				—							
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
		官民連携による 取組		・設計及び建設段階において、次代を担う若い世代を対象に施設への興味や関心を深めてもらうため、模型の作成や工事車両への試乗体験など、市民参加型イベントを実施 ・青い森セントラルパークにおいて、公募設置管理制度(Park-PFI)を活用した民間事業者が設置運営するスポーツクラブとカフェの設置による公園内の賑わい創出				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●				・市民参加型イベントについては、施設の魅力向上や利用促進につながるようなイベントや運動プログラムを実施するなど、運営事業者と連携を図りながら賑わいの創出に努める。 ・公募設置管理制度については、設置された公募対象公園施設(スポーツクラブ、カフェ)が公園全体の賑わい創出となるよう事業者の運営状況を管理・指導する。			
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●							
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																			
持続的なまちづくり 体制の構築		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた				—									
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した													
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													

様式2-2 地区の概要

青森操車場跡地地区（青森県青森市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 地域の安心を支え、にぎわいを生み出す交流拠点の形成 目標1 人と人の交流を促進し、にぎわいを生み出す健康・交流拠点の形成 目標2 防災機能の強化を図ることによる、地域の安心を支える緑豊かな拠点の形成		市民が交流活動できる環境に関する満足度	単位：％	34.0	H30	40.0	R6	40.4	R6
		市民体育館（アリーナ）の利用者数	単位：人／年	162,870	H28	265,893	R6	396,004	R6
		地区の安心・安全性に関する満足度	単位：％	33.5	H30	40.0	R6	26.9	R6
青森市アリーナプロジェクト推進事業									
 市総合体育館（全景）		 市道南奥野44号線							
 高次都市施設（地域交流センター）		 地域生活基盤施設（緑地・多目的広場）							
 多目的ルーム		 防災備蓄倉庫							
 高次都市施設（子育て活動支援センター）		 高質空間形成施設							
 キッズルーム									
まちの課題の変化		○青森操車場跡地の有効活用 →青森操車場跡地の東西用地及び南側用地（市有地）の整備により、多目的に利用できる場の確保、交通環境の向上、賑わい創出に寄与している。 現在未整備である北側用地や多目的芝生広場として活用されている南側用地（県有地）については、有効活用に向け、今後も引き続き、関係機関と連携・協力して取り組んでいく。 ○大規模な自然災害への対応 →指定緊急避難場所として一時避難のための防災備蓄倉庫を備えた広場を確保するとともに、指定避難所として指定された青森市総合体育館の整備により、防災機能の強化を図った。 一方で、鉄道により分断されている南北の接続強化が課題となっている。 ○高齢化の進展への対応 →スポーツのみならず多様な催事が可能な青森市総合体育館の整備により、市民の健康増進（健康寿命の延伸）に寄与する環境の充実を図った。 今後、人口減少・高齢社会に対応するため、鉄道やバス等の公共交通機関が相互に連続して機能し、公共交通ネットワークを強化する必要がある。 ○昭和52年に建設された市民スポーツの活動の場である市民体育館の経年による老朽化 →長年スポーツ活動の場として使用されてきた市民体育館を、スポーツのみならず多様な催事ができる交流拠点として建替えし、当地区の賑わい創出に寄与する施設として整備した。							
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）		○健康・交流・防災拠点としての持続的な取組 →青森市総合体育館を健康・交流・防災拠点とし、スポーツや健康づくりをする機会の提供、施設の魅力向上や市民の交流促進につながるようなイベント等の実施、災害時にも利用できる体制の確保など、運営事業者と連携を図りながら取り組んでいく。 ○交通環境の整備充実 →新駅や自由通路などの整備に向け、関係機関と連携・協力して取り組んでいく。 ○その他 →当該地区全体として効果的な利活用が図られるよう、引き続き、関係機関と連携・協力して検討を進める。							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値	●		(指標2) 従前値 163,009人/年 目標値 266,039人/年	(指標2) 従前値 162,870人/年 目標値 265,893人/年	市民体育館利用者数の集計人数の精査による。
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道大野片岡36号線(改築)	355.0	L=1,020m、W=15m	546.3	L=1,040m、W=15m	・詳細設計の結果による、事業費精査及び整備延長変更	—	●	
道路	市道大野片岡36号線[都市機能誘導区域外](改築)	—	—	106.1	L=90m、W=15m	・事業の追加	—	●	
道路	市道南奥野44号線(改築)	550.0	L=920m、W=15m	744.8	L=1,090m、W=15m	・詳細設計の結果による、事業費精査及び整備延長変更	—	●	
地域生活基盤施設	緑地、多目的広場	1,433.0	A=42,550㎡	1,377.5	A=41,637㎡	・詳細設計の結果による、事業費精査及び整備面積変更	—	●	
地域生活基盤施設	防災備蓄倉庫	14.0	2棟	31.2	4棟	・関係部署との協議による、整備数量の変更	—	●	
地域生活基盤施設	【(仮称)青森市アリーナ】防災備蓄倉庫	—	—	45.4	A=105.00㎡	・事業の追加	—	●	
高質空間形成施設	バリアフリー対応公衆トイレ	66.0	2棟	31.2	2棟	・詳細設計の結果による、事業費精査	—	●	
高次都市施設	【(仮称)青森市アリーナ】多目的ルーム	—	—	295.5	A=622.98㎡	・事業の追加	—	●	
高次都市施設	【(仮称)青森市アリーナ】キッズルーム	—	—	456.8	A=778.47㎡	・事業の追加	—	●	

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	民間活力導入可能性調査	55.0	・実施方針及び要求水準書作成業務 ・事業者決定アドバイザー業務	47.6	・実施方針及び要求水準書作成業務 ・事業者決定アドバイザー業務	事業費精査	—	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
社会資本整備総合交付金 都市公園・緑地等整備事業 都市公園事業		(仮称)青森市アリーナ整備	4,840.9	7,022.0	R2～R5	R2～R5	令和6年3月完成	—
社会資本整備総合交付金 都市公園・緑地等整備事業 官民連携型賑わい拠点創出事業		青い森セントラルパーク整備	486.1	540.8	R2～R5	R2～R5	令和6年3月完成	—

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
	単位				基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし	
指標1	市民が交流活動できる環境に関する満足度	%	広報広聴課において令和6年5月実施の市民意識調査より、『地区の娯楽などの場の充実に 関する満足度』を確認する。	36.6	H26	34.0	H30	40.0	R6	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	40.4	事後評価		○
指標2	市民体育館(アリーナ)の利用者数	人/年	令和6年7月～9月の利用者実績値から、年間利用者数を推計する。			162,870	H28	265,893	R6	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	396,004	事後評価		○
指標3	地区の安心・安全性に関する満足度	%	広報広聴課において令和6年5月実施の市民意識調査より、『地区の安心・安全性に関する満足度』を確認する。	36.1	H26	33.5	H30	40.0	R6	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	26.9	事後評価		×

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	交流拠点である青森市総合体育館の整備をはじめ、道路の新設・拡幅整備による交通環境の向上、緑地・多目的広場の整備による地域住民の憩いの場の創出などが図られたことから、目標達成につながったと考えられる。	—
指標2	令和6年7月から9月までの集計時点では、市民参加型の開館記念イベントの実施や、子どもがのびのび遊べるキッズルームが好評となっていることにより、年間利用者が目標値を上回る見込みとなっている。	—
指標3	多目的広場、道路新設・拡幅、防災備蓄倉庫などの整備により防災機能の強化を図ったが、令和6年5月実施の市民意識調査時点では、青森市総合体育館開業(令和6年7月)前であり、整備効果が発現していないものと考えられる。	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○ : 評価値が目標値を上回った場合
△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
	単位				基準 年度		基準 年度			
その他の 数値指標1	—	—	—	—	—	—	—	モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・青森市総合体育館のメインアリーナや広大屋根付き空間「ヨリドマ」では、プロスポーツ、コンサート等の興行、地元町会でのイベント活用、若手農家による産直市といった、多様な主体による活動が活性化している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—

添付様式3－② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
設計・建設工事における市民参加型イベント	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	事業者からの提案に基づき、次代を担う若い世代を対象に施設への興味や関心を深めてもらうための市民参加型イベントとして、設計では参加者と設計者が施設の模型を製作し、意見交換を行うワークショップを2回、建設工事では工事現場において鉄筋の結束作業などを体験するものづくり体験、建設工事車両への試乗体験、現場見学会を開催した。	市民参加型イベントについては、施設の魅力向上や利用促進につながるようなイベントや運動プログラムを実施するなど、運営事業者と連携を図りながら賑わいの創出に努める。
公募設置管理制度(Park-PFI)の活用	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	公募設置管理制度(Park-PFI)の活用により、青い森セントラルパークに民間事業者が運営するスポーツクラブとカフェが設置され、公園の賑わい創出となった。	公募設置管理制度については、設置された公募対象公園施設(スポーツクラブ、カフェ)が公園全体の賑わい創出となるよう事業者の運営状況を管理・指導する。

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—	—

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課による都市再生整備計画事後評価検討会	関係各課職員（都市政策課、道路建設課、公園河川課、地域スポーツ課）	令和6年10月	都市政策課（都市再生整備計画事業担当課）

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		—	—
指 標 名		市民が交流活動できる環境に関する満足度		市民体育館（アリーナ）の利用者数		—	—
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路（市道大野片岡36号線（改築））	○	道路の新設・拡幅整備による交通環境の向上、緑地・多目的広場の整備による地域住民の憩いの場の創出などが図られたことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。 青森市総合体育館開業前の市民意識調査であったことから、開業後の現在においては、更なる満足度の向上が期待される。	○	市民参加型の開館記念イベントや、子どもがのびのび遊べるキッズルーム等が、利用者数増加に貢献している。スポーツのみならず、多様な催事ができる交流拠点として青森市総合体育館を整備し、併せて青い森セントラルパークにおいて公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、魅力の創出を図ったことが、目標値の達成に作用したものと考えられる。	—	—
	道路（市道南奥野44号線（改築））	○		○			
	地域生活基盤施設（緑地、多目的広場）	○		○			
	地域生活基盤施設（防災備蓄倉庫）	—		—			
	地域生活基盤施設（【（仮称）青森市アリーナ】防災備蓄倉庫）	—		—			
	高質空間形成施設（バリアフリー対応公衆トイレ）	○		—			
	高次都市施設（【（仮称）青森市アリーナ】多目的ルーム）	△		◎			
	高次都市施設（【（仮称）青森市アリーナ】キッズルーム）	△		◎			
提案事業	事業活用調査（民間活力導入可能性調査）	△		◎		—	—
関連事業	都市公園事業（（仮称）青森市アリーナ整備）	△		◎			
	官民連携型賑わい拠点創出事業（青い森セントラルパーク整備）	△		◎			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	青森市総合体育館及び青い森セントラルパークの適正な運営により、持続的な魅力創出を図る。	施設の魅力向上や利用促進につながるようなイベントや運動プログラムを実施するなど、運営事業者と連携を図りながら賑わいの創出に努める。	—	—
-------	---	---	---	---

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			—			—			—		
指 標 名		地区の安心・安全性に関する満足度			—			—			—		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道大野片岡36号線(改築))	△	多目的広場、道路新設・拡幅、防災備蓄倉庫などの整備により防災機能の強化を図ることができたものの、令和6年5月実施の市民意識調査時点では、青森市総合体育館開業(令和6年7月)前であり、整備効果が発現していない。	I		—	—		—	—		—	—
	道路(市道南奥野44号線(改築))	△											
	地域生活基盤施設(緑地、多目的広場)	△											
	地域生活基盤施設(防災備蓄倉庫)	△											
	地域生活基盤施設(【(仮称)青森市アリーナ】防災備蓄倉庫)	×											
	高質空間形成施設(バリアフリー対応公衆トイレ)	△											
	高次都市施設(【(仮称)青森市アリーナ】多目的ルーム)	×											
	高次都市施設(【(仮称)青森市アリーナ】キッズルーム)	×											
提案事業	事業活用調査(民間活力導入可能性調査)	×											
関連事業	都市公園事業((仮称)青森市アリーナ整備)	×											
	官民連携型賑わい拠点創出事業(青い森セントラルパーク整備)	×											

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・防災訓練や広報などを通じて当地区の防災意識の醸成を図っていく。 (上記について対応したうえで、翌年度における目標達成状況を確認し、必要に応じて改善方針を検討する。)	—	—	—
------------------	--	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係課による都市再生整備計画事後評価検討会	関係各課職員（都市政策課、道路建設課、公園河川課、地域スポーツ課）	令和6年10月	都市政策課（都市再生整備計画事業担当課）

添付様式5－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
青森操車場跡地の有効活用	青森操車場跡地の東西用地については、緑地・広場の整備により多目的に利用できる場を確保したほか、道路の新設・拡幅整備により交通環境の向上を図った。南側用地（市有地）については、市民の健康づくりとスポーツ振興、交流人口の拡大及び防災機能の強化を図った。	青森操車場跡地の北側用地は、公共施設の駐車場等として一部利用されているが、大半が未利用の草地となっており、鉄道駅の整備について関係機関と協議し、有効活用に向けて取り組む必要がある。 南側用地（県有地）においても、多目的芝生広場として活用されているが、当該区全体として効果的な利活用が図られるよう、引き続き所有者である県と連携していく必要がある。	—
大規模な自然災害への対応	指定緊急避難場所として一時避難のための防災備蓄倉庫を備えた広場を確保するとともに、指定避難所として指定された青森市総合体育館の整備により、防災機能の強化を図った。	鉄道により分断されている南北の接続強化が課題となっている。	
高齢化の進展への対応	スポーツのみならず多様な催事が可能な青森市総合体育館の整備により、市民の健康増進（健康寿命の延伸）に寄与する環境の充実を図った。	人口減少・高齢社会に対応するため、鉄道やバス等の公共交通機関が相互に連続して機能し、公共交通ネットワークを強化する必要がある。	
昭和52年に建設された市民スポーツの活動の場の中心である市民体育館の経年による老朽化	長年スポーツ活動の場として使用されてきた市民体育館を、スポーツのみならず多様な催事ができる交流拠点として建替えし、当地区の賑わい創出に寄与する施設として整備した。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	健康・交流・防災拠点としての持続的な取組	青森市総合体育館を健康・交流・防災拠点とし、スポーツや健康づくりをする機会の提供、施設の魅力向上や市民の交流促進につながるようなイベント等の実施、災害時にも利用できる体制の確保など、運営事業者と連携を図りながら取り組んでいく。	・青森市総合体育館及び青い森セントラルパーク等運営事業

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	交通環境の整備充実	新駅や自由通路などの整備に向け、関係機関と連携・協力して取り組んでいく。	・青森操車場跡地周辺整備推進事業 ・鉄道事業者である県をはじめとする関係機関との連携
	その他	当該地区全体として効果的な利活用が図られるよう、引き続き、関係機関と連携・協力して検討を進める。	・県をはじめとする関係機関との連携

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5－②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度		年度						予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	市民が交流活動できる環境に関する満足度	%	34.0	H30	40.0	R6	確定 見込み	● ●	40.4	○	あり なし	→	—	—	—	
指標2	市民体育館(アリーナ)の利用者数	人/年	162,870	H28	265,893	R6	確定 見込み	● ●	396,004	○	あり なし	→	令和7年7月	令和6年7月から令和7年6月までの青森市総合体育館の利用者数を集計し、確定値を確認する。	—	—
指標3	地区の安心・安全性に関する満足度	%	33.5	H30	40.0	R6	確定 見込み	● ●	26.9	×	あり なし	→	令和7年11月	広報広聴課実施の令和7年度市民意識調査より、『地区の娯楽などの場の充実にに関する満足度』を確認する。	—	—
その他の数値指標1	—	—	—	—	/		確定 見込み	● ●	—	/	/	→	—	—	—	—

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	健康・交流拠点となる青森市総合体育館の整備に加え、公募対象公園施設の併設やアクセス道路等の周辺整備を一体的に推進することにより、体育館利用者数や交流人口の増加につなげることができた。	事業効果を促進するための方策を掘り起こしていくことが重要である。
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	次代を担う若い世代を対象にワークショップ等の市民参加型イベントを開催することにより施設への興味や関心を深めてもらうことができた。	住民参加は、円滑な事業推進に加え、住民のまちづくりや施設活用の意識醸成につながることで期待されるため、住民参加の環境を形成することが重要である。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

土地利用の方向性に係る関係機関との協議等を経て、必要に応じ計画策定する。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年11月1日 ～令和6年11月15日	同左	担当課への郵送、 FAX、電子メール、窓口 での意見書提出	都市整備部 都市政策 課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に市のホームページで 公表している旨を掲載	広報あおもり11月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市政策課窓口で閲覧	令和6年11月1日 ～令和6年11月15日	同左		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	足達 健夫 公立大学法人青森公立大学経営経済学部 准教授 松井 克明 東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科 准教授	令和6年11月19日	都市整備部 都市政策課	青森市社会資本整備評価委員会条例	青森市社会資本整備評価委員会
その他の委員	松田 英嗣 あおもり創生パートナーズ株式会社 取締役 大坂 美保 NPO法人青森県防災士会 女性部長 黄金崎 勉 一般社団法人青森県建築士会 相談役				

審議事項※1		委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書		
	成果の評価		
	実施過程の評価	評価委員会後に記載	
	効果発現要因の整理		
	事後評価原案の公表の妥当性		
	その他		
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認		
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成		
	フォローアップ		
	その他		
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認		
その他			

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。